

## 研究機関名：東北大学

受付番号： 2014-1-193
研究課題名 胸部大動脈グラフト感染に対し再置換後急性期に VAC システムを導入した delayed sternal closure
研究期間 西暦 2014 年 7 月（倫理委員会承認後）～ 2015 年 6 月
対象材料 <input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名 ) <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名 ) <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ 診療録 )
上記材料の採取期間 西暦 2007 年 11 月～2013 年 5 月
意義、目的 胸部大動脈グラフト感染はその多くが抗生剤治療抵抗性で致死的な合併症である。特に吻合部仮性瘤や膿瘍形成例では再置換術を要する事が多く、その場合グラフト再感染のリスクが問題となる。当科では感染活動期に再置換せざるを得ないグラフト感染に対して、速やかなグラフト再置換後に VAC システムを導入し delayed sternal closure を施行する治療戦略を選択している。今回、これらの胸部大動脈グラフト感染症例について治療方針の妥当性を検討する。
方法 2007 年 11 月から 2013 年 5 月までに当科で経験した胸部大動脈グラフト感染症例のうち、再手術前には VAC 療法をし得ない病態を有しているために、直ちにグラフト再置換を要し、術直後に VAC システムを導入した症例に関して、診療録を元に後方視的に解析を行う。診療録より収集する項目は現病歴，手術時間，術後抗生剤，術後合併症の有無，早期死亡の有無，長期成績(死亡・心血管系合併症の有無)など。
問い合わせ・苦情等の窓口  東北大学病院心臓血管外科 医局 仙台市青葉区星陵町 1-1 2 号館 3 階 TEL: 022-717-7222 齋木佳克，細山勝寛